

地震に立ち向かうキーワード ③

# 市の果たす役割

特集

# 公助

コウジョ

災害時は、市、消防、警察などにより救助活動や支援物資の提供が行われます。ここでは、災害に備える市の取組みをご紹介します。

## 市の災害への備えとは？



**発災時は、他市や事業所などと連携し対応**

災害が起きる、また、起きる恐れがある場合、市は災害対策本部を立ち上げて、被害情報の把握、避難勧告などの発令、救命・救助といった災害対応を実施します。ただし、大規模災害時、市だけの対応には限界があります。そこで、さまざまな団体と連携して対応することとしています。



**災害に備えた地域の取組みを支援します**

地域の防災活動を支援し、一体となって取り組むことも、市の重要な役割の一つです。市では、地域での防災訓練の手順や方法について相談に応じているほか、「出前トーク」として地域へ出向いて防災について説明したり、消防職員が応急手当ての指導をしたりしています。



**後悔しないための備え。できる範囲で行動を**

東日本大震災の被害状況をみて、多くの人が「地震はいつ起きてもおかしくない。自分も被災するかもしれない。」と思ったのではないのでしょうか。



## 市の防災備蓄品

市は、災害時に備え、非常食や毛布などを備蓄しています。また、被災すれば、協定を結んださまざまな団体からも支援物資が届けられます。ただし、地震の規模や発生状況で、非常食などが不足すること考えられますので、各自で非常持出袋などを用意しておくことが大切です。

### 市の備蓄倉庫

- ▼非常食(アルファ米) [約10,000食]
- ▼乾パン [約400食] ▼毛布 [1,900枚]
- ▼粉ミルク [13.6kg]
- ▼簡易トイレセット [45セット]
- ▼ブルーシート [約200枚]
- ▼発電機 [28台] ▼投光器 [28台] など

※毛布と非常食の一部は被災地へ送付。送付分は納品待ち

### 各避難所

- ▼毛布 [20~80枚] ▼発電機 [1台]
- ▼投光器 [1台] ▼燃料携行缶 [1個]
- ▼携帯式非常用照明 [2台]
- ▼コードリール [1台]

## 地域と市が連携を深め、迅速で的確な災害対応へつなげたい

災害が発生した際には、市は全力で災害対応を行います。東日本大震災のように被害が大きくなると、消防を含めた行政の支援(公助)は行き届かない可能性があります。阪神・淡路大震災でも倒壊建物の中から救助隊などに助けられた人はわずかに約2%にとどまりました。ほとんどの人が、自力で、あるいは家族や友人、隣人に助けられたのです。

そこで、市では自分の身は自分で守る「自助」や自分たちの地域は自分たちで守る「共助」の必要性を皆さんに訴えかけています。さらに、迅速で的確な災害対応につなげていくためには、地域から市へ詳細な被害状況を報告いただいたり、市から地域へ避難や被災時の生活情報を提供したりするなど、地域と市の情報共有が欠かせません。

今後は、各地域と市が合同で防災行政無線の送受信訓練や、避難所の開設・運営訓練などを実施することが必要だと考えています。これからも災害時に備え、地域(共助)と市(公助)の連携を深められるよう取り組んでいきますので、皆様のご協力をお願いします。

危機管理室 室長 藤岡 善光



はないでしょうか。しかし、記憶は風化していきま。震災のことを忘れることなく、今日からでも災害への備えを始めてください。いざという時に「備えをしておけばよかった」と後悔してからは遅いのです。災害時、市はできる限りの対応をしますが、被害が甚大で広域に及ぶと、すぐに支援に結びつけることが難しい場合もあります。自分の身は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」。一人ひとりができる範囲で行動に移していくことが、自分や愛する人を守ることに繋がります。

